

研修医ワークショップ報告

2月17日、救急医が臨床研修医の皆さんに贈る明日の当直から使えるTips満載のクイズ形式の勉強会が開催されました。当日実施の症例クイズの一部をご紹介します！

症例：25歳男性 全身発赤、呼吸苦

遊びに来ていた弟と自分の下宿先で豚肉のお好み焼きを作って食べた。食べ始めて30分後くらいからお腹のあたりが痒くなった。どんどん全身に痒みが広がって来て、咳も出はじめた。呼吸も苦しくなり、お腹も痛くなった。しんどそうにしている兄を見て弟が救急要請。

- 既往歴：花粉症(スギ)
- 内服薬：なし
- アレルギー：食事・薬物にはなし
- 生活歴：タバコ 吸わない

Q1 看護師への指示で最も正しいものを選び。

- A アナフィラキシーです！ アドレナリン0.3mg 皮下注射して下さい！
- B アナフィラキシーです！ アドレナリン0.3mg 静脈注射して下さい！
- C アナフィラキシーです！ アドレナリン0.3mg 筋肉注射して下さい！

A1 C アナフィラキシーです！ アドレナリン0.3mg 筋肉注射して下さい！

落ち着いたところで当直医は本人と弟によく話を聞きました。いままでこんな事は一回もなかった。アレルギーも絶対ない。食べたのはお好み焼きだけで、あとは水しか飲んでいなかった。

Q2 救急でさらに聞きたいことや行いたい検査があれば書いて下さい。

A2 お好み焼き粉の開封時期と保存方法を聞く 粉を持ってきてもらい、水をたらしして顕微鏡でチェック

病名：パンケーキ症候群

即時型アレルギーを引き起こす
原因：コナヒョウヒダニ
検査：水をつけて顕微鏡で確認
主にパンケーキ粉、日本ではお好み焼き粉も開封後は密閉できる容器に入れ、冷蔵庫で保存1ヶ月以内に使用すること



WAO Journal 2009; 2:91-96a



研修医・若手医師のための情報誌「Arzt」

Arzt Vol.07



研修医・若手医師のための情報誌「Arzt」

Arzt Vol.07

2019年4月7日発行
■ 発行人 一般社団法人 京都府医師会
■ 制作 Arzt編集部

研修医REAL INTERVIEW 自分の将来像を描き、 一歩ずつ前進したい

指導医に聞く ジェネラルマインドを持って 初期研修に臨むことが大切



症例やシミュレーションを通して救急医療を学ぼう！

平成31年度 臨床研修屋根瓦塾KYOTO

京都府医師会研修医向け イベントスケジュール

とき 2019年7月6日(土) 午後2時～7時(予定) ※懇親会含む

ところ 京都府医師会館 参加費 無料

対象 1・2年目の研修医
プログラム(予定) ■ロールプレイ ■シミュレーションゲーム
■懇親会/メディカルクイズ

お申し込み・お問い合わせ
下記連絡先もしくはメールにて
気軽にご連絡ください！

京都府医師会 学術生涯研修課
メール:gakujiyutu@kyoto.med.or.jp



一般社団法人 京都府医師会
〒604-8585 京都市中京区西ノ京東梅尾町6
TEL.075-354-6104 FAX.075-354-6074
http://www.kyoto.med.or.jp/

京都府医師会では本紙を定期的に発行しており、次号は7月に発行予定です。
掲載内容向上のために、本誌に関するご意見・ご要望をお寄せください！
また、研修医・編集委員を募集しています。
編集に携わってみたい先生がおられましたら、事務局までご連絡ください。



「Arzt」:ドイツ語で「医者」を意味する言葉から本誌のタイトルを取りました。

一般社団法人 京都府医師会



自分の将来像を描き、 一歩ずつ前進したい

洛和会音羽病院でキャリアの第一歩を踏み出した中川先生。研修医として臨床経験を積むなかで感じた喜びや課題、さらに現在の中川先生を築いたこれまでの歩みや将来の目標について伺いました。

憧れで終わらず、医学部に挑戦

医師に憧れを抱くようになったのは小学生の頃。マンガの影響で、「外科医ってカッコいいな」と思っていました。といっても積極的に勉強をするタイプではなく、バスケットボールやハンドボールに打ち込むなど、体を動かす方が好きな子どもでした。

本気で医師になろうと決意したのは、大学受験の時です。ある大学の工学部に合格したのですが、自分の本当の気持ちと向き合ったところ、将来進みたいのは医療の道だと気づき、もう一度勉強をし直して医学部を目指すことに。9つ上の兄が医師となり、充実した毎日を送る姿を見ていたことも大きなきっかけとなりました。それからは苦手科目の克服に重点を置いて猛勉強。嬉しいことに成績は順調に上がり、愛媛大学医学部に合格することができました。少しまわり道をしたかもしれませんが、良い経験ができたと思っています。

実践と研修を通じて多くのことを吸収

私は外科医を目指しており、後期研修で外科を専門的に学ぶ前に内科をしっかり勉強したかったので、内科に力を入れている病院で働きたいと考えていました。兄に相談しながら、自分でもいろいろ調べるなかで洛和会音羽病院に出会ったんです。病院を見学させていただくと、医師だけでなく他の職種の方々のモチベーションも高く、ここならしっかりと臨床経験を積み、キャリアの基礎を築けると感じました。

実際に指導医の先生は熱心に指導してくださり、同期も積極的に仕事に取り組む姿勢を持っているので、自然とやる気が湧いてきます。今は現場での実践やさまざまな研修を通じて、できる限り多くのことを吸収するように努めています。はじめてERで患者さんを診た時は、自分でも驚くほど思うように動けませんでした。しかし自分ができなかったことを確認し、その理由を考え、改善を図ることで少しずつ迅速に動けるようになってきました。内科の研修は理論やアプローチについて学ぶことが多く、今後のキャリアに活かせるように理解を深めているところです。

Profile

中川 博道 先生
洛和会音羽病院
初期研修1年目

オフは大好きなスポーツで汗を流してリフレッシュするという中川先生。院内のマラソン大会にも出場予定。しかし気がつく、医学書を開いて勉強をしていることが多いとのこと。

指導医に聞く



洛和会京都医学教育センター 所長
洛和会音羽病院 副院長
酒見 英太 先生

ジェネラルマインドを持って 初期研修に臨むことが大切

当院の研修病院としての特長は、救急症例を数多く経験できること、充実した朝のレクチャー・昼のカンファレンス、地域医療研修が挙げられます。救急は年間約30,000例(救急車搬送:6,000例以上)受け入れており、研修医は2年間で約1,000例を経験します。朝のレクチャーは、指導医がテーマを設定して講義を実施。昼のカンファレンスは毎日1時間かけて診断推論型症例検討を行います。また地域医療研修では、北海道または東北の診療所で4週間、一般外来や在宅診療など、地域に密着した医療を体験。こうした実践的な研修によって幅広いスキルを身につけ、迅速・適切に診療する力を養います。

当院で初期研修を受けている中川先生も志望する外科以外の学習を積極的に行い、医師としての基礎を固めていると感じます。修了後は学んだことを統合し、診断・治療に活かせる外科医になってくれることを期待しています。

初期研修は、医師が生涯携わっていく専門領域以外についてハンズ・オンで学べる唯一の期間です。これから初期研修に臨む方には、ジェネラルマインドを持って取り組んでほしいですね。京都府医師会が主催するワークショップなども、広い視野を身につける良い機会だと思います。

京都府医師会が主催する研修医対象のワークショップや懇親会も、視野を広げる良い機会だと思います。さまざまな病院で働く同期と話すことで、自分とは異なるアプローチに刺激を受けたり、喜びや悩みを共有することで励まされたり、貴重な時間を過ごすことができました。

医師はコミュニケーションが不可欠

現場で働きはじめて感じるのが、コミュニケーションの大切さ。患者さんに疾患や治療について説明する時は、分かりやすく伝えるように心がけています。気軽に相談していただけるような雰囲気づくりもしなければと思っているのですが、なかなかむずかしいですね。チーム医療が欠かせない現在の医療において、多職種とのコミュニケーションも大切です。私は経験が浅いので、さまざま



な領域の専門家の意見や仕事から多くのことを学ぼうと意識しています。

まだ初期研修1年目で、仕事のやりがいについて考える余裕はないというのが正直のところですが、やはり患者さんが回復された姿を見るのがいちばん嬉しいですね。患者さんやご家族から「ありがとう」と声をかけていただいた時は、「もっと頑張ろう」という気持ちになります。

尊敬する兄に追いつくことが目標

これからも初心を忘れずレベルアップに努め、患者さんや医療従事者から信頼してもらえ外科医になりたいと考えています。将来は、地元の熊本で地域の患者さんの力になることができれば嬉しいです。そのためにまずは、尊敬する兄に追いつくことを目標にして自己研鑽に励みたいと思っています。

これから医学生や研修医になる方も、目標をもって学んでほしいですね。すぐに結果につながらずに悩むこともあると思いますが、努力は絶対に無駄にはなりません。お互いに目標を達成できるように頑張りましょう。

